

柱 1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

生徒が主体的に学習に取り組む時間の設定と学校独自作成ドリルを活用した取組 ～宇城市立松橋中学校～

「フレンドリータイム」と称し、学校独自で作成した「松中ドリル」を活用して、生徒が主体的に学習に取り組む時間を設定している。



「フレンドリータイム」

生徒が主体的に学習に取り組む時間として、毎週金曜日の6時間目に設定しています。生徒同士の学び合い（仲間づくりの視点）も取り入れることで、学ぶ意欲の向上や自立的な学びの活性化につなげています。「松中ドリル」を使って個人で課題に取り組むだけでなく、仲間づくりの視点から友達と課題解決する時間を設定しています。



「松中ドリル」

昨年度の県学力・学習状況調査で課題が見られた単元の問題や、過去の定期テストの問題等をまとめた冊子です。

柱 1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

基礎コース・発展コースに分かれて課題解決を目指す取組 ～山鹿市立鹿北中学校（3年英語科）～

英語の授業において、生徒一人一人の知識・技能の習熟状況を把握した上で、授業の途中で習熟度別に分け、自分に合ったペースで課題解決に取り組むようにしている。



自分の友達をA L Tに紹介する英文を書くという課題を設定し、現在分詞の後置修飾の習得を目指して練習問題に取り組む場面です。

全体で文法の確認をした後に、基礎と発展の2コースに分かれます。

基礎コースは、教師のアドバイスを受けながら問題を解き、大問ごとに全員で解答を共有します。

発展コースは、タブレットのガイドを聞きながら問題を解き、終了後にA L Tの点検、指導を受けます。

最後にまとめを全体で行います。

柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

音楽の授業におけるリコーダーの指づかいについて、タブレットを個別指導や評価に活用する取組

～ 合志市立西合志第一小学校（3年音楽科）～

導入で指づかいについての一斉指導を行った後、個別練習の様子をタブレットで録画し、それをもとに一人一人に個別指導を行っている。録画したものは、評価にも活用している。



リコーダーの「ソラシド」の音を使った曲を練習する学習で、拍を感じて演奏することについて指導する場面です。

まだ指づかいに慣れておらず、教室で音を出しての練習もできない中、タブレットを用いることで児童自身が自分の演奏を録画しながら振り返ったり、教師が演奏の様子を見たり音を聞いたりして、全員に個別に指導することができます。

オンライン学習で児童が練習したり演奏を発表したりする様子を教師用タブレットで録画し、児童の変容や習得したことを評価に用いることにも活用しています。

柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

友達とやり取りを行うために、自分のペースで必要なフレーズを練習する取組
～ 高森町立高森中央小学校（5年外国語科）～

単元のゴールを達成するために、必要なフレーズを復習する際、タブレットを用いて練習することで、習熟度別に速さを自分で調節して練習できるように工夫している。



「自信をもって発話することが苦手な児童がいる」という現状から、全員でやり取りをする前に、個人で練習する時間を十分に設定しています。

イヤホンを使用するので、周りの声や音を気にすることなく、自分のペースで何度も練習できます。全体練習でも、大きな声で発話できるようになります。

児童の実態に合わせた手立てにより、自分の考えや思いを伝え合い、やり取りを楽しむ姿へとつなげています。

県学力・学習状況調査過去問題等を活用した計画的な補充学習の取組 ～天草市立亀川小学校～

週1回の学力充実タイムに県学力・学習状況調査過去問題等を活用した基礎力の定着や応用力の発展を図るための個に応じた指導を行っている。

学充タイム計画				令和2年度の県学調・全学調で正答率が低かったところをあげています。			
計画しているもの以外に、「ここが苦手なので、補充問題を！」というものがあれば、お知らせください。							
月	日	教科	3年	4年	5年	6年	
9	9	算	5 かけ算 文章問題を解くための乗法の式を選ぶことができる。	3- (2) 億と兆・がい数 概数に対応する数の範囲を理解している。	2 整数のなかま分け 最大公約数を適用して問題を解決する。	5- (2) 分数のかけ算・わり算 比較量・規準量が分数の場合において比較量が規準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。	
	16	国	2- (2) 第2学年に配当された漢字を正しく書く。	2- (2) 漢字を正しく書く 第3学年に配当された漢字を正しく書く。	2 3- (5) 漢字を正しく書く 第4学年に配当された漢字を正しく書く。	3 言葉の学習 文中で、文脈に沿って漢字を適切に使っている。	
	30	算	15 かけ算 200×4の計算の仕方を、100の何個分かをもとに説明している。	19 折れ線グラフ ・グラフを正しく読み取る ・グラフを読み取り、予想したことが正しくないことを説明する。 グラフを読み取り、比較する。	9 10 小数のかけ算・わり算 ・文章問題に合う小数のわり算の式を選ぶことができる。	資料を読み取り、分かったことを説明する。	
10	7	国	3 言葉の学習 ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる。	4 物語の内容を読み取る 場面の移り変わりについて、叙述をもとに捉えている。	6 報告する文章を書く 情報と情報の関係について理解し、自分の考えの理由をまとめてかいている。	3 言葉の学習 尊敬語を正しく使っている。	
	14	算	8- (2) わり算 答えが「4人」になる文章問題を選ぶことができる。	11 計算のきまり 分配法則を用いて計算している。	9 10 小数のかけ算・わり算 ・図を使って、小数の除法の文章問題に合う式を選ぶことができる。	5年16 単位量あたりの大きさ 公園の面積と人数からどの公園が混んでいるのかを考察している。	
	21	国	3 言葉の学習 漢字辞典の使い方を理解している。	5 説明文の内容を読み取る 情報と情報との関係について、段落相互の関係を捉えている。	5- (2) 説明文の内容を読み取る 情報と情報との関係について理解し、文章全体の構成を捉えている。	4 物語文の内容を読み取る 文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げる。	
	28	算	17- (2) わり算 並んでいる人数と1台の観覧車に乗れる人数から何代目の乗ることができるかを説明している。	4- (2) (3) 5 18 わり算 3けた÷1けたの計算 除法の性質を理解し、工夫した除法の筆算に出くる数の意味を理解している。	資料を読み取り、分かったことを説明する。	5年16 単位量あたりの大きさ 公園の面積と人数からどの公園が混んでいるのかを考察している。	
11	4	国	4 物語の内容を読み取る 登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えている。 叙述をもとに、内容を捉えている。	5 説明文の内容を読み取る 叙述をもとに文章の内容を捉えている。	3 言葉の学習 敬語について理解し、正しく使っている。	5 説明文の内容を読み取る 文章全体の構成を考えている。	
	18	算	17- (1) 時と分と秒 2つの時刻を比較して、その間の時間を求める。	5 わり算 除法の筆算に出くる数の意味を理解している。	5年16 単位量あたりの大きさ 公園の面積と人数からどの公園が混んでいるのかを考察している。	16 拡大図と縮図 ・縮図を使って建物の実際の大きさを求め、その求め方を説明している。 ・縮図上の長さを求める。	
	25	国	6 インタビューに向けて準備する相手に分かるように事例を挙げながら話している。 情報と情報の関係について、考えの理由を明確に書いている。	6 調べたことを発表する 相手に伝わるように、事例を挙げながら話している。	7 文章を書く 指定された長さで文章を書く。	6 給食便りを書く 情報と情報の関係について理解し、目的に応じて適切に文章を書いている。	
12	2	算	12, 13 円と球 球の半径から球が2つ入った箱の辺の長さを求める。	14 16 垂直・平行と四角形 ・方眼を使った垂直な直線の見つけ方を理解している。 ・対角線の性質を用いて、ひし形の作図をしている。	18 平均 ・平均を求める ・平均から全体を求め、その求め方を説明する。	10 比と比の値 等しい比について理解している。	
	9	国	7 文章を書く 内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。	7 文章を書く 内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている。	5- (2) 説明文の内容を読み取る 文章を読んで理解したことについて、自分の考えをまとめている。	(全学調) 目的に応じて文章と図を結びつけて必要な情報を見つける。	
		算		4- (4) (5) 小数第二位÷小数第二位 小数第一位÷小数第三位 の計算ができる。	3- (2) 分数と小数 分数と小数の大小比較をしている。	9 文字と式 文字を使った式が表す場面を選んである。	

県学力・学習状況調査の結果から本校の課題を教職員で共有し、学校総体で取り組んでいます。中学年以上は、前年度の学力調査等で課題が見られた問題等を活用し、「いつ、どの学年がどの問題に取り組むか」を明確にし、教職員が複数体制で指導に当たるなど、計画的に取り組を進めています。

プリントを解いて一斉に答え合わせをして終わりにならないよう、個別指導を行い、早く終わった児童は別の課題に取り組ませたり、児童同士で考え方を伝え合う場を設定したりしています。

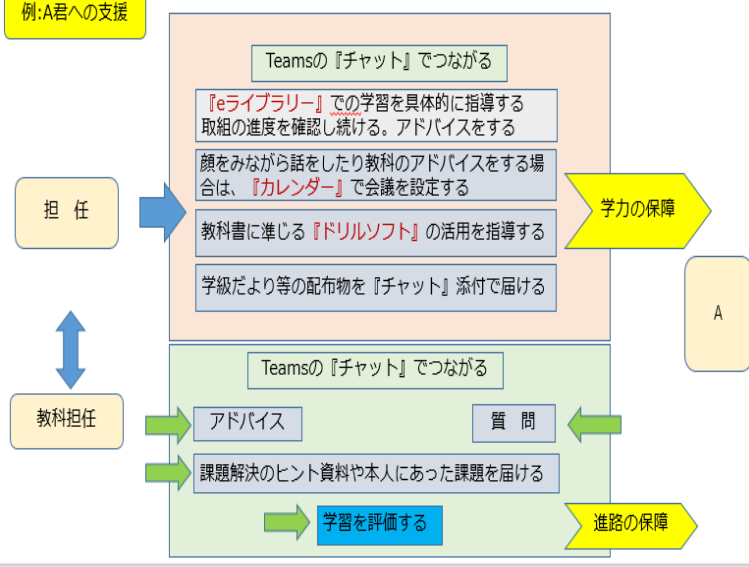
柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

不登校の状況にある生徒の学力保障を目指したタブレットPC活用による効果的な学習支援の取組

～八代市立第二中学校～

一人一台のタブレットPCを活用し、学習支援ソフトやチャット機能を通して生徒と教員がつながり、教員が具体的なアドバイスをしながら個に応じた学習を進める取組を行っている。

例:A君への支援



不登校の状況にある生徒の学力保障を目指し、本人や保護者との十分な共通理解のもと、担任と教科担任が連携しながらタブレットPCを活用した学習支援を行っています。

生徒の現状を基に、何をどのように学習するのかを具体的に指導し、取組の進捗を確認しながら助言を行っています。

Microsoft Teamsのチャット機能でやりとりをしたり、カレンダー機能で会議を設定し、直接、顔を見ながら教科の具体的な助言を行ったりすることで、生徒が学習意欲を高めながら主体的に学んでいます。